

課題名：医療側と企業側双方を対象とした双方向的開発人材育成拠点の整備

代表機関／代表者： 国立大学法人大阪大学/中島 清一

分担機関：なし

研究期間：令和7年7月～令和8年3月

目的

産と学、医と工の間をシームレスに行き来し、異分野間のギャップを埋めながら医療機器の研究開発を強力に指導していく「融合人材」を多く輩出する。

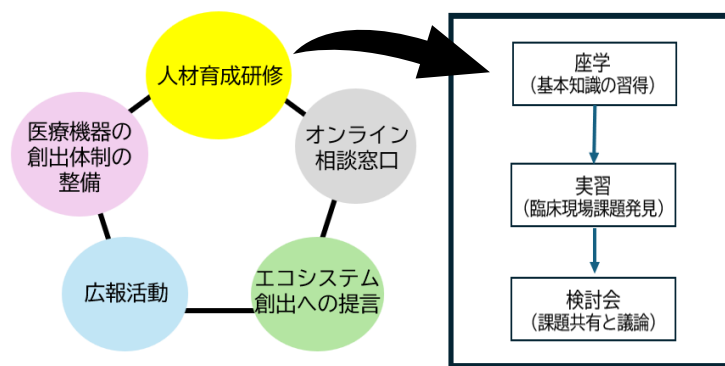
支援内容・体制

- 本学が一貫して取り組んできた**座学**（基本知識の習得）、**実習**（臨床現場での課題発見）、**検討会**（課題共有と議論）という基本プロセスに則った通年育成プログラムを実施する。
- 過去11年間連携してきた**本学附属病院**、昨年度から連携を開始した**ジャパンバイオデザイン**に加え、今年度より**国際医工情報センター**、**未来医療センター**との連携を開始し、各プログラムの担当者と密に協力しながら、学内により包括的、体系的な開発人材育成の枠組みを構築する。
- 内外の大学や病院、ふくしま医療機器開発支援センター等の拠点外機関との連携をさらに強化し、持続可能な医療機器の研究開発支援体制の構築をめざす。

成果・実績（予定）

- 学内に複数存在する医療機器開発人材育成プログラムを連携させ、より包括的かつ効率的に運営する。
- 本事業で育成された人材によって開発された医療機器が社会に実装され、現場で広く使われるようになる。

支援イメージ



支援イメージ



プログラムの一つである実習では、手術室を含む実際の医療現場の見学に加え、ハンズオン・ラボでの医療機器の操作や手技を体験できる機会を提供している。